令和8年度　岐阜県
自然共生工法写真コンテスト

応募作品
No.1
～
No.28

主催　岐阜県自然共生工法研究会
岐阜県



清流ミナモ

①



２０２６年度　岐阜県　自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	自然と調和した木製遊歩道
撮影場所	揖斐郡　大野町　野　地内
撮影日	令和８年４月２５日
応募者コメント	山中から湧き出る水を利用した水路や湿地帯を跨ぐ散策道として自然と調和した木製遊歩道が整備されています。日差しの強い日でも暑さを和らげる木陰で森林浴を楽しみながら動植物を身近に観察することができます。
審査員とりまとめコメント	運動公園外縁の凹地に山麓からの湧水で形成された湿地において、環境を保全しながら緑陰の散策を可能とした木道の様子をよく伝えているバランスの良い構図の写真で、木々の間を適度に屈曲して奥に続く木道は、あたかも人びとを穏やかな心地よい静寂へと誘っているようである。

②



２０２６年度　岐阜県　自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	睡蓮
撮影場所	大垣市野口町八反割（杭瀬川）
撮影日	令和８年７月４日
応募者コメント	杭瀬川河川敷を利用した『杭瀬川スポーツ公園』内にある睡蓮池です。水辺空間を利用して自然環境に配慮された公園です。７月上旬（７時～９時）から睡蓮が、可憐に咲き始めます。浮橋も設けられており、散策には大変適した場所になっています。
審査員とりまとめコメント	杭瀬川下流区間には、かつて遊水地であった広い土地が残り、様々に利用され、自然再生事業も進められている。ここでも、直線化された流路と旧流路の間が水域として確保され、睡蓮も鑑賞できる水面が浮橋や回りの木々とともに良好な景観を形成しているが、緩流域の在来生物への言及がないのは残念である。

③



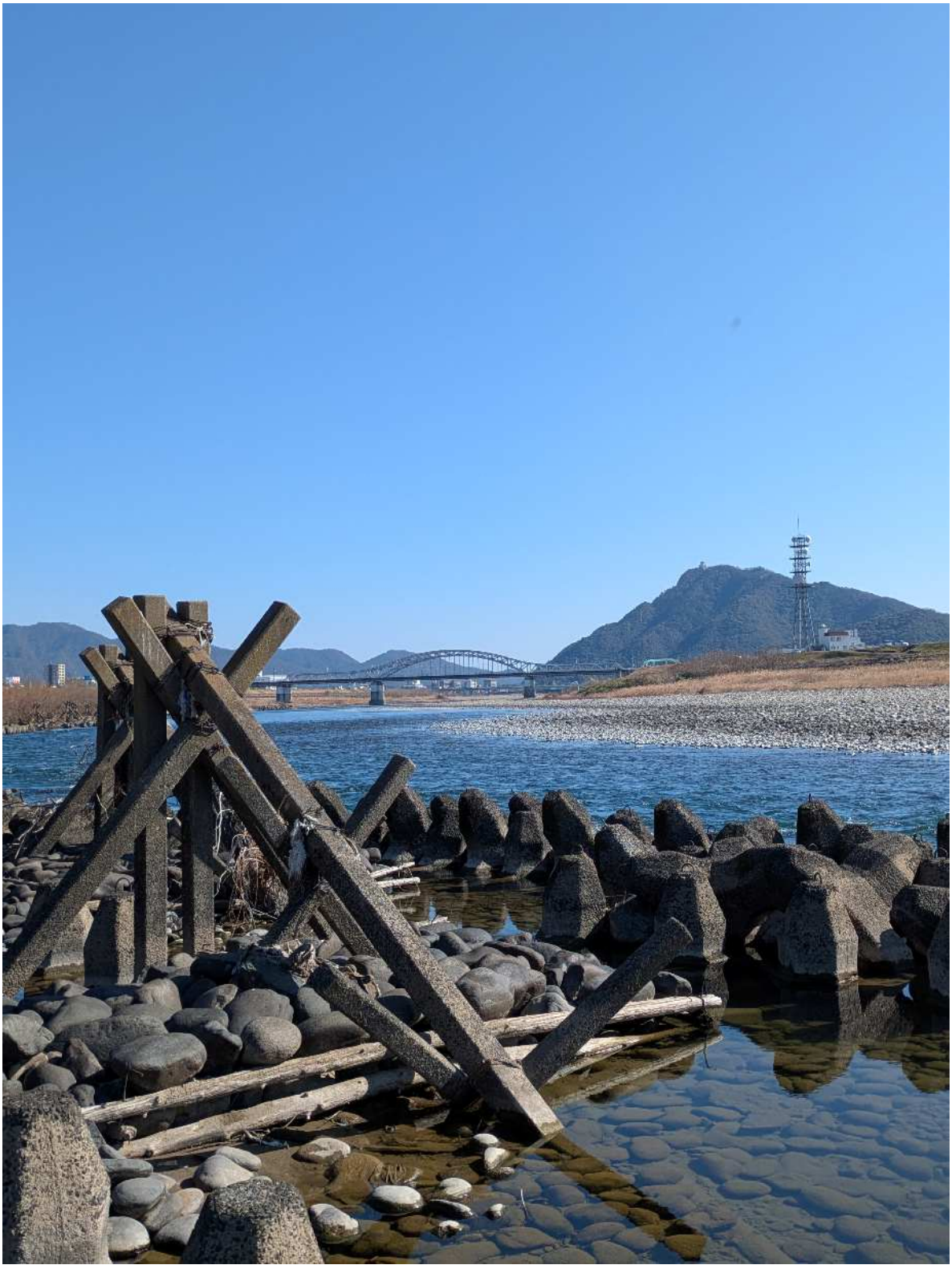
２０２６年度　岐阜県　自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	緑に寄り添う川づくり
撮影場所	郡上市白鳥町六ノ里（牛道川）
撮影日	令和８年７月９日
応募者コメント	白尾山の豊かな森に育まれた牛道川。自然石を用いた護岸や階段状の落差工は、治水だけでなく魚類など水辺の生き物にも配慮され、周囲の景観に美しく溶け込んでいます。人と自然が支え合う川づくりの大切さを、この清流が静かに語りかけてくれます。
審査員とりまとめコメント	幾たびとなく河道災害を受けてきた牛道川は、その度に河岸と河床に手が加えられて安全度が高められてきた。左右の護岸はその履歴を物語り、景観配慮の巨石練り積護岸や取水堰とおぼしき落差工から層積み護床工を過ぎる水流は周辺の緑に馴染んでいるが、魚類の落差工の遡上は困難であろう。

④



２０２６年度　岐阜県　自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	聖牛の群
撮影場所	岐阜市東島付近（長良川右岸）
撮影日	令和８年２月２１日
応募者コメント	伝統的な治水工法の一つである「聖牛」。河岸浸食等の抑制だけでなく、生物の生息環境提供、景観のアクセントなど多面的な役割を果たす。岐阜市東島付近では、水衝部と見られる区間に、国土交通省により聖牛がまとまって設置された。
審査員とりまとめコメント	岐阜市忠節橋下流の湾曲部外岸に設けられた木工沈床とブロック積みによる突き出し水制群とその上のコンクリート聖牛群が低水河岸をよく防護していることの窺える写真で、これらは金華山を背景に景観にも馴染んでいる。ただ、樹木で聖牛が目立たないのは残念で、聖牛自体の生物生息環境提供も限定的であろう。

⑤



２０２６年度　岐阜県　自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	聖牛の群
撮影場所	岐阜市東島付近（長良川右岸）
撮影日	令和８年２月２１日
応募者コメント	伝統的な治水工法の一つである「聖牛」。河岸浸食等の抑制だけでなく、生物の生息環境提供、景観のアクセントなど多面的な役割を果たす。岐阜市東島付近では、水衝部と見られる区間に、国土交通省により聖牛がまとまって設置された。
審査員とりまとめコメント	木工沈床とブロック積みによる突き出し水制の先端近くの写真で、水制の水はね効果が窺えるとともに、２基のコンクリート聖牛を含めて空隙の多い構造となっていて、治水機能と環境機能を両立させていることがわかり、水制先端上の聖牛、広い水面、忠節橋、金華山と続く構図も優れている。

⑥



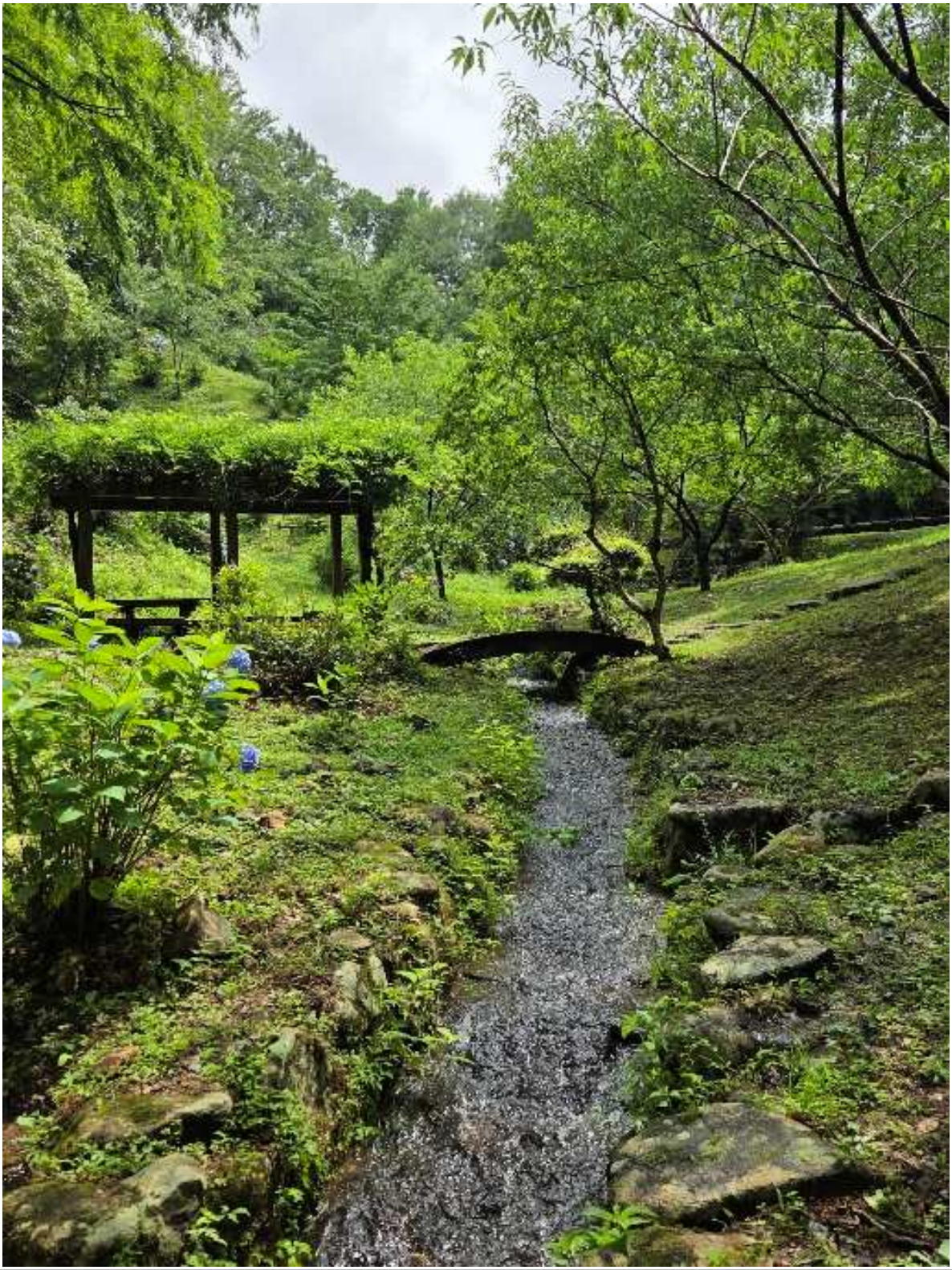
２０２６年度　岐阜県　自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	山との共生
撮影場所	揖斐川町春日（岐阜のマチュピチュ）
撮影日	令和８年５月５日
応募者コメント	まちづくりが山と美しく調和しており、人間と山とのあるべき共生だと感じた。
審査員とりまとめコメント	周辺の山並みに比して山腹が遙かに緩やかで水はけが良く、日照にも恵まれたこの地はお茶の栽培に適しており、それを生業とする集落が形成されて現在の景観が生み出された。その意味で、この景観は自然と共生した生活の営まれてきた証であり、写真はその様をよく表している。

⑦



２０２６年度　岐阜県　自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	雨上がりの静けさ
撮影場所	可児市久々利柿下入会（荒川豊蔵資料館）
撮影日	令和８年５月１日
応募者コメント	人間国宝の荒川豊蔵さんの居宅だった建物が保存されています。 工法の良い点として、地形を大きく改変していない、地形に合わせて自然石を使って階段を設けている、木立を保全している、植生は適切に管理されている事が挙げられます。
審査員とりまとめコメント	新緑のケヤキの疎林と苔庭がうっすらと電燈の灯った日本家屋をやさしく包み込み、手前には、この場所本来の自然環境の良さを極力損なわないよう、最上流に砂防ダムのある細流を巧みに取り込んで、優れた景観を創出している。雨上がりの静けさを感じさせる写真はこれを良く表現している。

⑧



２０２６年度　岐阜県　自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	梅雨の晴れ間にざわめく自然
撮影場所	美濃加茂市山之上町（みのかも健康の森）
撮影日	令和８年６月２８日
応募者コメント	工法の良い点として、小川の流れは直線的でなく、護岸の肩や水際も直線的ではないこと。護岸は人工的な材料ではなく、河岸の勾配はゆるく階段もあること。さらには橋と藤棚があり、水辺に親しみやすくなっている事が挙げられます。
審査員とりまとめコメント	みのかも健康の森の防災調整池に流入する山麓からの細流を、周辺景観に溶け込むよう、河岸勾配を緩やかに自然石を用いて整備し、小橋に藤棚や植栽を配して、ふと散策の足を止めたくなる、水辺に親しみやすい空間が創出されている。この穏やかな情景を写真はバランス良く写し出している。

⑨



２０２６年度　岐阜県　自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	潺（せせらぎ）
撮影場所	揖斐郡揖斐川町上野　朝鳥公園（浅取谷）
撮影日	令和８年７月２５日
応募者コメント	玉石護岸張りになっていてキャンプも出来る親水型公園になっています。さすがに酷暑日に近い気温なので遊びに来ている人は少なかったです。
審査員とりまとめコメント	揖斐川流入直前で朝鳥公園を貫流する浅取谷は、親水性と景観に考慮した玉石三面張りで整備され，河岸上の緑と相俟って、安心感と親近感がもたらされている。その一方で、直線的・平面的な水際や流れ、また石礫・砂礫の見えない河床の単調さは疑えず、水生生物の姿のないのも残念である。

⑩



２０２６年度　岐阜県　自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	緑との共存
撮影場所	多治見市大畑町2丁目（大洞川流路工）
撮影日	令和８年７月３日
応募者コメント	平成5年度に完成した県単砂防環境整備事業。その現場は、事業完了から30年以上が経過した今も地域に息づいています。 近年の夏は、30年前とは様変わりしました。猛暑や酷暑の日々が続き、ひとたび雨が降れば災害級の豪雨となることも珍しくありません。 そんな厳しい自然環境の中で現場を巡視していると、ふと心が和らぐ風景に出会いました。長い年月を経て、地域とともに歩み続ける流路施設。その一角で見つけた、自然が見せてくれた優しい風景をご紹介します。
審査員とりまとめコメント	大洞川が笠原川に合流する直前の佇まいで、限られた空間に曲線の柔らかさを取り込み、長期にわたる維持管理で、親水性、水際植生の再生等の環境が保たれていて．地域の暮らしと水辺との繋がりが感じられる。惜しむらくは、写真の陰影が強過ぎて左岸法面の状態や河道奥の様子が捉え難い。

⑪



２０２６年度　岐阜県　自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	魚道のある風景
撮影場所	本巣市山口（根尾川）
撮影日	令和８年７月１９日
応募者コメント	根尾川はきれいな水と美しい山々が織りなす自然環境が豊かな、まさに「清流」です。景観の良さがあり、地元や関係者がその魅力に惹きつけられています。その根尾川での魚道がある風景を撮影しました。
審査員とりまとめコメント	河床安定を図る落差工を中央に、左岸に扇形魚道を配し、遠景にしたことで山並みに川面と白波の対比が絶妙となっており、山紫水明根尾川中流部の代表的景観として、自然河川に近い落ち着きが感じられ、魚類の遡上・降下も連想される。手前土手の映り込みが抑えられていればより良かった。

⑫



２０２６年度　岐阜県　自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	よみがえれ！中橋の水辺
撮影場所	高山市神明町（宮川）
撮影日	令和８年７月２１日
応募者コメント	河川の河床洗掘対策として木工沈床による護床工を施工した高山市中橋上流の現場です。治水機能を確保しながら植生の回復を促し、生物の生息環境にも配慮した自然共生型の河川整備事例です。
審査員とりまとめコメント	沈床は、水底に沈めて法尻を固める構造物なので本来目に付き難いが、自然素材を用いた多孔質の木工沈床は水生生物にとって良好な環境になり、敢えて露出させている傾向にある。写真は、中橋がアクセントとなり、水面と樹木が落ち着いた雰囲気を醸しているが、間詰めコンクリートが目立つ。

⑬



２０２６年度　岐阜県　自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	植生回復を育む水際の創出
撮影場所	高山市上岡本町（苔川）
撮影日	令和８年７月２１日
応募者コメント	河川改修に伴う護岸施工において、護岸前面へ土砂を配置することで植生の自然回復を促進した。加えて、河道内に緩やかな蛇行を創出することで、水際に変化に富んだ環境を形成し、多様な生物の生息空間を確保した。景観の保全にも配慮しながら、河川の安全性と自然環境の調和を実現している。
審査員とりまとめコメント	苔川の河道は、幾度かの被災を経て改修されて現在の形に至っている。この区間では、護岸前面に土砂を配置して植生回復と流路の緩蛇行が図られ、緑に恵まれた景観が生み出されて水生動物の生息も推察できるが、深みの認め難いのは残念で、これ以上の草本繁茂は安全面の懸念となってくる。

⑭



２０２６年度　岐阜県　自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	自然石を活用した石組による河床低下対策
撮影場所	郡上市白鳥町町越佐（長良川）
撮影日	令和８年７月２３日
応募者コメント	河床低下箇所に自然石による石組を施工し、河床の安定と瀬と淵の再生を図った箇所である。 施工後４年経過、昨年６月末の豪雨後も損傷もなく、河床の安定が図られ周辺景観の調和のとれた箇所である。
審査員とりまとめコメント	清澄な水面に河原が広がり、稜線が連なる長閑な景色だが、突き当たりの建屋は、平成１６年水害の大規模な河岸侵食によって損壊した後再建されたものであり、その前面には強固な護岸が築造された。自然石施工の石組は、河床の凹凸や多様な流れをもたらし、魚類の生息・移動を助けている。

⑮



２０２６年度　岐阜県　自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	里山に息づく水辺の風景
撮影場所	中津川市蛭川地内（一ノ瀬川）
撮影日	令和８年７月１４日
応募者コメント	既存の岩盤や植生をできる限り残しながら地元産のみかげ石を利用した護岸・水路を整備し、自然環境への影響を低減した。多様な水際環境が形成され、動植物の生息・生育の場を確保するとともに、農村景観との調和を実現している。
審査員とりまとめコメント	一之瀬川は狭隘な山間を縫うように流れ下り木曽川に流入するが、ところどころに写真のような広がりのある落ち着いた農村景観が認められ、地元特産の御影石を生かしながら、河道中央に岩盤を残しつつ、右岸に膨らみを持たせた水辺づくりが試みられていて、整備の工夫と効果が感じられる。

⑯



２０２６年度　岐阜県　自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	東股川の石組帯工
撮影場所	中津川市付知町地内（東股川）
撮影日	令和８年７月１７日
応募者コメント	河床に設置した石組帯工が流速を緩和するとともに、多様な流れと隠れ場を創出している。人工構造物の印象を抑え、渓流本来の景観に溶け込むことで、生態系保全と河川利用の両立を図った。
審査員とりまとめコメント	東股谷が付知川に合流する直上流から上流向きに撮影した写真で、石組帯工を題材にしているとはいえ、中央の護床ブロックに目がいって、焦点が定まらないきらいがあるが、そこかしこに小さな淵や隠れ場ができていて、魚類の移動や底生生物の生息に適した環境が形成されていると思われる。

⑰



２０２６年度　岐阜県　自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	下沢川とダイナミック砂防
撮影場所	中津川市蛭川地内（下沢川）
撮影日	令和８年６月１日
応募者コメント	平成初期の整備から30年以上を経て、河床の露岩と護岸石材が風景の中で自然に調和している。時間の経過とともに自然環境へなじみ、人工構造物を感じさせない良好な河川景観を形成している。
審査員とりまとめコメント	中津川市蛭川地区のシンボル笠置山を遠くに望み、奥に四阿や階段を配して下沢川に親近感を持たせ、河床の露岩と護岸の石材とが河岸の樹木とともに一体感をもって風景の中に調和しており、人工物と気づかないくらい周囲と馴染んでいて、整えられた流路に施工後３０年の配慮が感じられる。

⑱



２０２６年度　岐阜県　自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	木曽川とリニア橋梁
撮影場所	中津川市苗木地内（木曽川）
撮影日	令和８年５月７日
応募者コメント	中津川市の苗木城跡から望む木曽川の雄大な景観の中で、リニア中央新幹線の橋梁工事が進められている。周辺の自然環境や景観への配慮を重ねながら施工が行われており、地域の自然と未来の社会基盤整備の調和を感じさせる事例である。
審査員とりまとめコメント	高い位置からの絶景と呼べる素晴らしいショットで、恵那山を背後に前山山麓に広がる中津川市街地のダイナミック感のある雄大な景色が中心にあり、手前に工事中のリニア中央新幹線橋梁が位置して木曽川が左手奥に隠れていく。ただ自然環境や景観への配慮が何なのか捉えにくいきらいがある。

⑲



２０２６年度　岐阜県　自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	深緑を映す付知川
撮影場所	中津川市付知町地内（付知川）
撮影日	令和８年７月１７日
応募者コメント	豊かな森林に育まれた清流が、透明感のある水辺環境を形成している。自然河岸や河床の岩石が残されることで多様な生態系が育まれ、人と自然が共生する良好な河川環境となっている。
審査員とりまとめコメント	付知川に合流する東股谷左岸には護岸が設けられているが、水面が見られなくいささか物足りない。しかしながら、稜線を背景に赤い橋梁と水面近い吊り橋、峡谷の深い緑と深く澄んだエメラルドグリーンの清流、岩石河岸の対比に川底の沢山の魚たちの姿と、豊かな自然を心ゆくまで楽しめる。

⑳



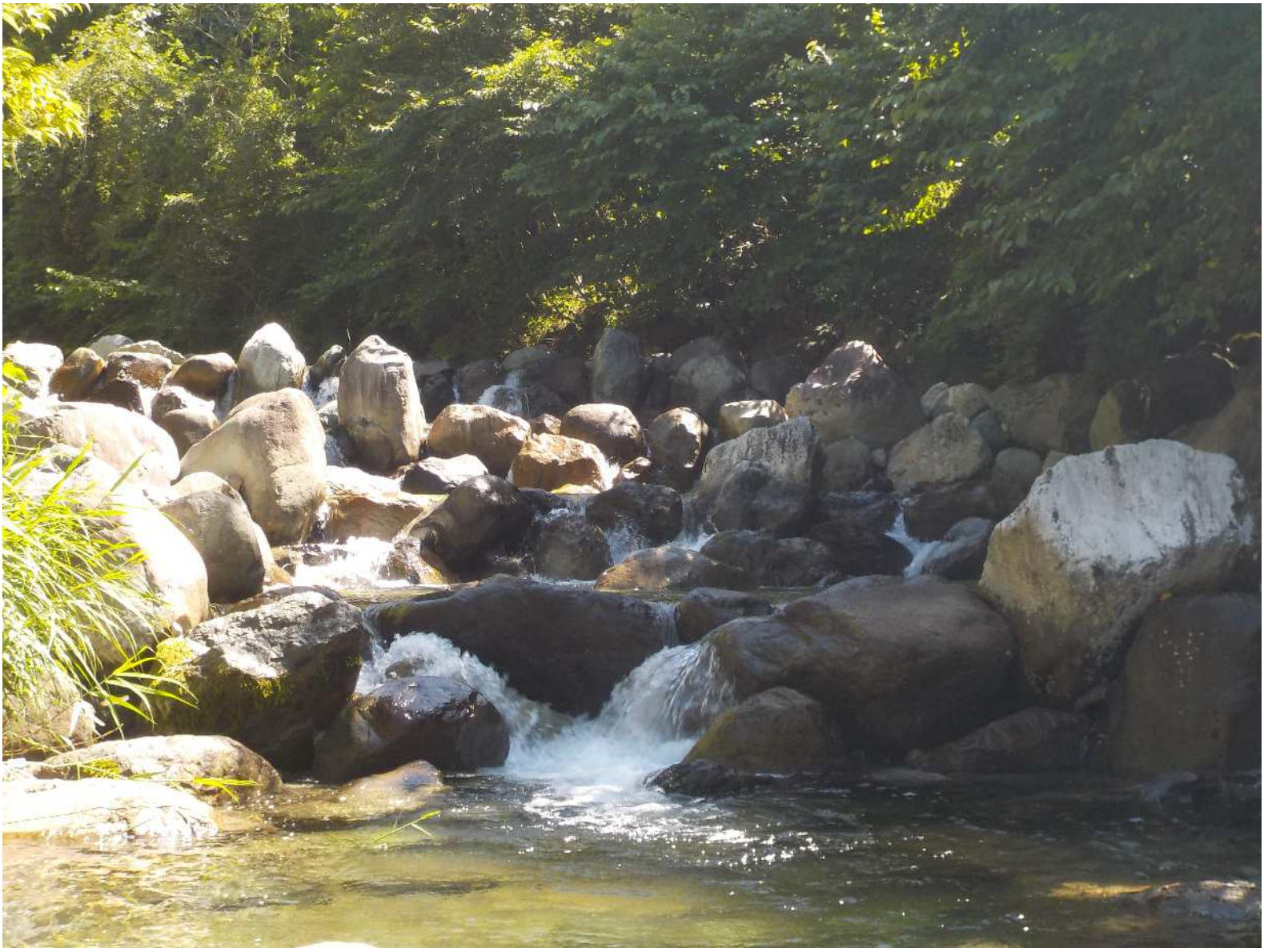
２０２６年度　岐阜県　自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	逆さ笠置
撮影場所	恵那市中野方町地内（中野方ダム）
撮影日	令和８年７月３日
応募者コメント	深い緑に包まれた中野方ダムの湖面には、笠置山と空が映り込み、美しい水鏡の景観を創り出している。治水・利水機能を果たしながら自然環境と調和した、地域の魅力を感じられる風景である。
審査員とりまとめコメント	笠置山のなだらかな稜線がダム湖に映り、堤体も静謐な佇まいを見せていて、何かしら引き込まれそうにもなる。地域の暮らしを多面的に支えている中野方ダムは、年月の経過とともに自然の一部であるかのような存在になっているけれども、自然共生というには生態系の検討等が必要であろう。

㉑



２０２６年度　岐阜県　自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	砂防の石張の全面魚道
撮影場所	下呂市阿多野（阿多野谷）
撮影日	令和８年７月２３日
応募者コメント	当施設は、下呂温泉近くの支川で砂防堰堤で発生した落差に石張工にて縦断勾配の緩和と流れの多様性を確保しました。水が少ない左右岸には植生が繁茂し、魚道の下流では、釣りを楽しむ姿も見られます。酷暑の時期には、涼が得られる場所です。
審査員とりまとめコメント	ダイナミックな川の流れる音を感じる迫力のある写真といえ、魚道の研究跡の窺える、石張全面魚道の興味深い施工方法であるが、急勾配である上に各段の天端近くには垂直壁が配され、流れの白濁も目立つ。吸盤のある魚なら登るかも知れないが、魚道機能が発揮されているかは疑問に思える。

㉒



２０２６年度　岐阜県　自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	岩組による多自然魚道
撮影場所	下呂市竹原（竹原川）
撮影日	令和８年７月２３日
応募者コメント	当現場は岩組工法を利用して河川の落差を緩和し、生物の移動を可能にしています。施工には現地の石材を利用しており、周辺環境と調和した景観となっています。また、コンクリートは使用していませんが、施工から10年以上経過した今でも機能を維持しています。
審査員とりまとめコメント	巨石を活かした工法で、水当たりや小滝が現われるなど、自然な流れが作り出されて魚道も確保され、生物多様性も図られるが、屹立する巨石には不自然さが感じられ、岩組内部も気になる。河床に多量の巨石があるなら、岩組に拠らずともステッププールの形成で河床が安定するのではないか。

㉓



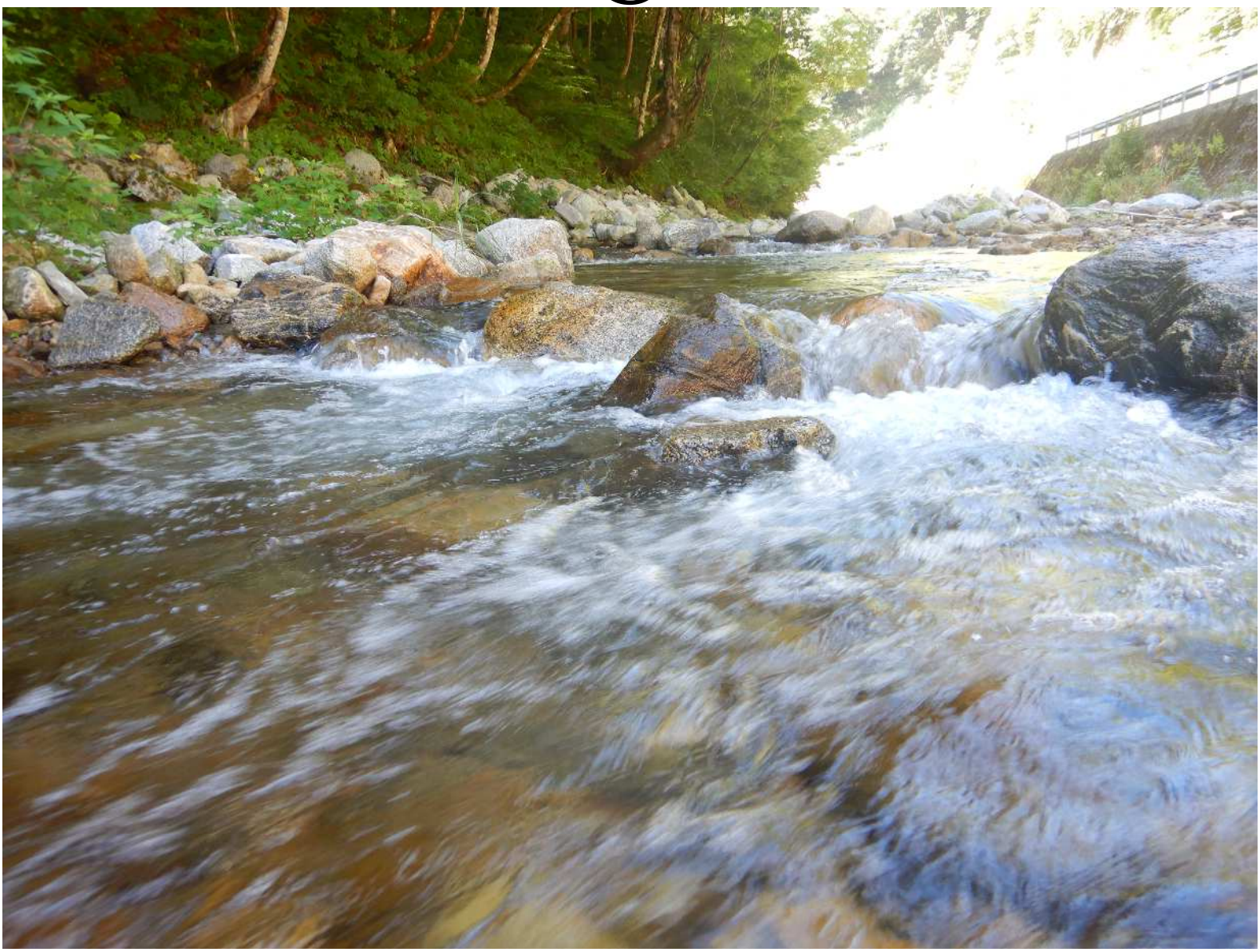
２０２６年度　岐阜県　自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	矢道川の水際植生の再生
撮影場所	大垣市矢道町（矢道川）
撮影日	令和８年７月１４日
応募者コメント	矢道川の改修時に、空隙がある連節ブロック護岸を施工したことで、既存の植生を回復するとともに、複雑な水際植生を再生した事例です。
審査員とりまとめコメント	圃場整備に合わせて改修された矢道川では、連節ブロックが敷設され侵食防止と法面安定の効果が認められる。狭い流路でも岸辺植物が豊かで、護岸が草で隠れた中小河川らしい植生景観となっていて、生態系の回復も見られるが、河床に横縞模様はあるものの流れの変化が乏しいのはやや残念。

㉔



２０２６年度　岐阜県　自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	神岡の町並みとガッタンゴーと山田川（寄せ石工法）
撮影場所	飛騨市神岡町船津（山田川）
撮影日	令和８年７月２３日
応募者コメント	飛騨市神岡町の町並みと旧神岡鉄道敷を利用したガッタンゴーの橋梁と、町の中心を流れる山田川の寄せ石工法。河道掘削工事施工時に、施工業者が高原川漁業協同組合と協力して勉強会を開催しながら、寄せ石工法による多自然型川づくりを創出した
審査員とりまとめコメント	漁協、施工業者等による勉強会の開催は望ましい取組であり、寄せ石工法で水際に多様性が生まれ、望ましい河道環境の創出に繋がっており、暮らしと自然とが近づいている印象を受ける。町並み、鉄道橋、川、山と揃っているが、橋梁が強調され過ぎの感があり、寄せ石の並びも単調になっている。

㉕



２０２６年度　岐阜県　自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	稲越川の転石利用による多自然型川づくり（置き石）
撮影場所	飛騨市河合町大谷（稲越川）
撮影日	令和８年７月２３日
応募者コメント	稲越川の河道掘削工事に伴い発生した転石について、施工業者が宮川下流漁業協同組合の意見を聞きながら多自然型川づくりに利用した。 １。土羽護岸法尻部保護のため、置き石を並べて護岸補強を図った。 ２。河床掘削後の川の生態系への配慮から、置き石を並べるように配置した。 工事完了後約２ヶ月が経過して、川の瀬と淵が形成され、多自然型川づくりが達成できた。
審査員とりまとめコメント	接写し過ぎのきらいがあり置き石の配慮も若干判りにくいが、近景での躍動感のある川の流れに巨石を配置して瀬渕を創出し、涼し気な情景を醸し出している。寄せ石に勢いよく水が当たり自然な河岸補強にもなっていて、流れにも変化が生まれており、生息場所の増えている様子も伝わってくる。

㉖



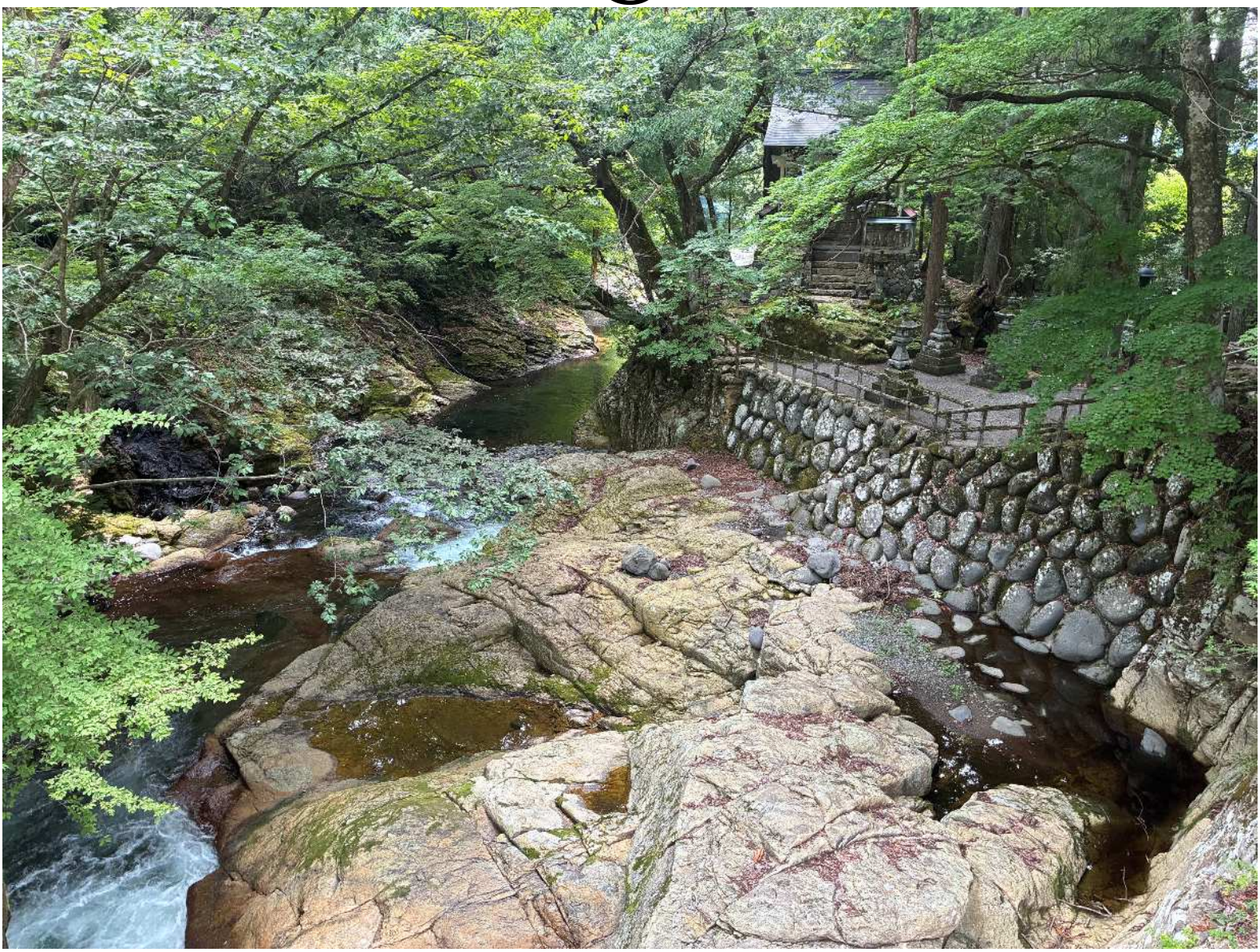
２０２６年度　岐阜県　自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	かわまちづくり「とみぱーく」
撮影場所	加茂郡富加町滝田（川浦川）
撮影日	令和８年７月２４日
応募者コメント	「富加町かわまちづくり計画」に基づき整備された水辺拠点である「とみぱーく」。隣接地には駐車場、トイレが整備され一連の空間として広がっています。
審査員とりまとめコメント	かわまちづくり計画に沿って整備され、よく手入れされた水辺拠点として、緩傾斜で水際に近づきやすく、小さな子供も安心して遊べるような工夫がなされ、芝空間と樹木が川辺に柔らかい親しみを持たせて、地域の憩いの場として多目的に利用されている。ただ、アクセントのない点は惜しい。

㉗



２０２６年度　岐阜県　自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	やさしい砂防
撮影場所	飛騨市神岡町跡津川（跡津川）
撮影日	令和４年８月１３日
応募者コメント	神通川水系の跡津川上流に整備された砂防施設群。コンクリートスリット型の堰堤は、水生生物の縦断方向の移動に配慮されている。石組状の横断工によるプール＆ステップにより、流速の緩和や河床保護のみならず、景観形成にも寄与している。下流の集落、カミオカンデ、国道41号など多様な保全対象をやさしく守っている。
審査員とりまとめコメント	神岡町跡津川地区の最奥に設けられた大規模スリット型砂防ダムと付帯施設で、コンクリートの白さはやや目立つが、ダム上流にはスリットに向かう流れと土砂の捕捉状況が窺え、大出水時における本来の効果に期待が持て、安全性と上下流の移動経路の確保等、生きものへの配慮が感じられる。

㉘



２０２６年度　岐阜県　自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	清流と共に生きる護岸
撮影場所	郡上市白鳥町野添（牛道川）
撮影日	令和８年７月３１日
応募者コメント	牛道川の清流と渓谷の景観に調和する石積み護岸です。長い年月の中で樹木や岩肌と一体となり、人工構造物でありながら自然の景観に溶け込んでいます。水辺の環境を守りながら、人々が楽しめる河川空間が形成されている様子を撮影しました。
審査員とりまとめコメント	郡上市白鳥町野添の貴船神社境内の一角にある、祠への参道の小橋から、祠と牛道川の佇まいを収めた写真と推察されます。基岩上に位置する祠への参道が野面積みの護岸工によって守られてきた様子が窺え、自然とともに暮らしてきた地域の人びととお宮の長い歴史的なつながりが感じられます。